

平成28年度施設運営の全体概要

1 施設運営の基本方針

機構本部の平成28年度の方針を踏まえ、『安全と健康，そして復興』～地域社会（学校・企業・民間団体）との連携～」をスローガンにし，次の3点を施設運営の基本方針に定めて運営を進めてきました。

- ① 特色ある教育事業の実施を通じて，地域における青少年教育の中心的役割を担いながら，教育事業の充実に努める。
- ② 研修支援事業の一層の改善・充実に努力するとともに，利用者の増加に努める。
- ③ 地域との連携を深め，地域の拠点として「体験の風をおこそう」運動，「早寝・早起き・朝ごはん」運動のさらなる普及に努める。

2 教育事業について

教育事業は，当施設の看板事業である「通学合宿 テンちゃん一家の一週間」を引き続き実施しました。通学合宿の対象校を同じ中学校区の2校とし，異なる学校・学年同士での共同生活や学習活動を行い，コミュニケーション能力や基本的な生活習慣の育成の充実に努めました。

成果の把握とその普及の観点では，いくつかの事業でIKR調査や児童用情動知能尺度（EQSC）等の手法を取り入れて分析しました。

今年度は，県立の教育施設や他機関，近隣の大学との連携協力を強化し，事業内容の充実に努めました。

教育事業の概要は，以下の通りです。

(1) 看板事業

通学合宿 テンちゃん一家の一週間 （「早寝早起き朝ごはん」運動推進事業） 《平成28年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学生を対象に当施設から学校に通いながら，規則正しい生活リズムの育成とよりよい仲間づくりを目的として，通学合宿（6泊7日）を実施しました。今年度は，滝沢市立滝沢第二小学校と滝沢市立滝沢東小学校の5～6年生の児童39名が参加しました。生活の基盤となる「衣・食・住」を児童自らの力で取り組み，レクリエーションや創作活動を体験しました。今年度は，4日目の祝日（勤労感謝の日）を利用し，活動内容を工夫しました。午前中に洗濯や掃除等の身の回りの整理整頓にじっくりと取り組み，午後は，岩手日報社から講師を招き「まわしよみ新聞」の活動をした後，大学生との交流を図りながら盛岡大学見学を行いました。全体を通して，自分でやるべきことはしっかり行い，学生ボランティアと楽しい時間を共有しました。

(2) 地域力向上事業

さんりく体験！発見隊 《平成28年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

東日本大震災から6年が経過しました。「震災を風化させない」「忘れない」ために、震災当時の様子を知ることに加え、被災地での「民泊」等の活動をとおして、被災地復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高めることを目的とした事業です。

岩手県立県南青少年の家と連携して検討委員会を組織し、企画段階から検討を進めました。

1日目は、岩手県立陸中海岸青少年の家の所長から、震災当時の様子を伺ったり、荒神海岸散策時に拾ったマリングラス等を使用しての創作体験を行ったりしました。2日目は、震災メモリアルパーク中の浜で震災遺構を見学し、その後、田老地区の「学ぶ防災」で震災語り部から、震災の話を聞き、津波のビデオを視聴しました。また、この日は田野畑村での民泊を行いました。最終日は、サッパ舟の乗船体験と机浜番屋群の見学を行いました。参加者からは、震災に関する学びを積極的に取り組みたいという気持ちが伺えました。

(3) 貧困対策事業

タートルズ・キャンプ 《平成28年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

児童養護施設との密接な連携により、課題を抱える子供たちの自立支援を目的とした事業「タートルズ・キャンプ」において、「アドベンチャー」をテーマに実施しました。今年度も、3つの児童養護施設と1つの情緒障害短期治療施設の参加で、事業開始から7年目を迎えました。本事業名の由来となる「自分の殻から顔を出し、まわりを見る勇気をだしてほしい。様子を見て、少しずつ手足をだし、ゆっくり一歩ずつ自分のペースで歩みだすことができるように・・・」のとおり、成長を実感できる子供たちの様子を見ることができました。特にスポーツレクリエーションや、陶芸体験、カヌー体験では、施設の枠を越えた参加者同士の交流も見られました。

(4) 国際交流事業

日独学生青年リーダー交流事業（文部科学省委託事業）

ドイツ団の17名は、ドイツ国内でボランティア活動を行う等、様々な社会貢献をしている大学生を中心とした高校生から社会人の方々でした。

岩手山プログラムでは、法人ボランティアと一緒に、意見交換や野外炊事の活動を行いました。夜には、法人ボランティアとスポーツ交流会をとおして交流を深めました。また、3つのグループに分かれて滝沢市立柳沢小学校に訪問し、子供たちと交流する内容を企画して授業を行いました。ボランティア同士や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深めました。小学校訪問やホームステイ等の体験をとおして、日本の文化についても理解を深めることができました。

(5) 指導者養成事業

① How To ボランティア, 体験活動支援セミナー 秋・冬

《平成28年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

青少年教育施設でのボランティア活動の基本を学ぶ「How To ボランティア」と、実際に「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供たちのグループリーダーとしてボランティア活動の実践を学ぶ「体験活動支援セミナー」を開催し、それぞれ多くの大学生・高校生が参加しました。

② NEAL 自然体験活動指導者（リーダー）養成研修

今年度から始まった事業で、教育事業「How To ボランティア」「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト④」と兼ねて実施しました。自然体験活動の特質、技術や安全管理等について研修を行いました。参加者10名全員がNEALリーダーの登録申請をしました。

③ 教員免許状更新講習

岩手大学と連携し、「安全面に配慮した自然体験活動の実際」と「体験活動プログラムによる人間関係づくり」の2講習（各6時間）を行いました。講義と演習を行うことで、理論と実践を結びつけて講習を行うことができました。

④ ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（7回）

岩手山ボランティア育成ビジョンに基づいた2年目の事業です。今まで学んだボランティアとしての知識や技術のスキルアップの機会として、ボランティア自身の企画運営で「ダンボールマスター」（ダンボールを使った遊び）、「プロモーションプロジェクト」（PVを作製して情報発信）、「咲く☆SEED」（ボランティア間交流）、「よくおでんした！」（当施設の理解を深める）の4事業の企画運営を行いました。法人ボランティアのスキルも大きくステップアップしました。

(6) 普及啓発事業

① テンパークまつり2016 《平成28年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

当施設が提供する活動プログラムを体験し、施設自体を広く地域の方々に知っていただくことを目的として「テンパークまつり2016」を開催しました。今年度も1泊2日（土・日）の親子宿泊体験と日曜日のみのテンパークまつりの2部構成で実施しました。今年度は「イーハトーヴ」による一輪車の華麗な演技の発表後、来場していた子供たちを対象に一輪車教室を開催し、大盛況でした。また「テンパークオリンピック」も新たに加え、延べ1千人を超える家族連れが来場しました。ステージ発表、スタンプラリー、創作活動など室内外のプログラムを楽しみました。

② テンパークちゃれんじくらぶ 秋・冬

毎回楽しい内容で、リピーターが多い事業です。小学生3年生から6年生を対象に、法人ボランティアが企画した活動を体験しました。体験活動支援セミナーに参加している学生が子供たちのグループリーダーとして活動しますので、学生との触れ合いも子供たちの楽しみの一つになっています。

(7) その他の事業

① 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

スキー体験 in テンパーク ～スキー すき 好き シーハイル!～

《平成 28 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学校 3 年生から 6 年生を対象に、スキーに親しむことと参加者間の交流を図ることを目的に開催しました。技能別に分かれてスキー体験を楽しみ、初心者のグループは少人数で手厚い指導を行いました。夜は講師を招き「スキーの話」を聞きました。2 日目のスキー体験は初日に比べ、どの子も上達し、満足そうな顔をしていました。

② 連携協力事業

Kids Together えいご de キャンプ in テンパーク

被災地域の子どもたちを対象に「Kids Together えいご de キャンプ in テンパーク」を HSBC グループと NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター (NICE) との連携事業として実施しました。この事業は、平成 20 年度に始まった事業で、HSBC グループが資金とボランティアを提供し、NICE がキャンプの企画・運営を担当し、当施設が活動場所と指導者を提供するという三者による連携協力事業です。今年度は、「ハロウィーン」と「クリスマス」をテーマとして 10 月と 12 月に、岩手山青少年交流の家を会場に行われました。日・英 2 言語を活用し、参加した子供たちは HSBC グループと NICE の外国人スタッフ・外国人ボランティアと交流することで英語や外国文化に触れ有意義な時間を過ごしました。

3 研修支援について

研修支援については、利用者の立場に立った業務運営に努め、利用者の研修をサポートするという意識を持って、親切、丁寧、迅速、笑顔での利用者対応を心掛けてきました。

また、利用者数の年間目標を定めるとともに、日常的に施設内の活動場所の安全点検を行い、安心・安全で清潔な活動環境を確保することに努めました。

(1) 研修指導・支援

利用団体の研修目的の実現のために、利用団体の立場になって研修支援を実施しました。具体的には、当施設職員によるきめこまやかな事前相談を行うとともに、事前相談に来られない団体にも、電話連絡を密にし、利用前の不安をなくせるように努めました。

また、野外炊事、アドベンチャープログラム、七宝焼などの研修において直接指導を実施しました。指導の質を高めるため職員研修を行い、より多くの職員が対応できるようにしました。

(2) 施設の利用状況及び利用者の評価

平成 28 年度の年間目標として、総利用者数 112,000 人以上、宿泊室稼働率 53.0%以上を目標としていましたが、総利用者数 121,556 人、宿泊室稼働率 53.9%となり、利用者数、宿泊室稼働率ともに目標を達成いたしました。今後とも広報活動や成果普及活動を行

い利用者の確保に努めたいと考えています。

利用団体からのアンケート「当施設を利用している総合的な満足度」をみると、「満足している」と回答しているものが86.2%、「やや満足している」と回答しているものが12.7%、両者を合わせると99.9%が「満足」と回答し、高い評価を得ることができました。利用団体からの意見・要望等については、事務連絡協議会でその内容を確認し、対応できるものはすぐに改善するように心がけています。

(3) 利用者の安全で快適な生活環境の確保、危機管理

利用者が安全・安心で清潔な生活環境のもとで、快適な研修活動が実施できるように、施設設備の整備・点検を定期的に行うとともに、想定される様々な災害・事故等が発生した場合の具体的な危機管理マニュアルを策定しています。

平成28年度は敷地内でのクマの目撃が3件あり、安全対策として、利用者が野外活動を行う前にコースを職員が爆竹を鳴らしてから活動に入っていただくとともに、クマを目撃した場合についての資料を作成し、団体に配布するなどしておりましたが、さらなる対策が必要となり、猟友会による罠の設置で1頭を捕獲しました。さらに、捕獲した地点を含むオリエンテーリングコースを一部使用禁止にする対策を取りました。スズメバチ対策については、トラップを自作し敷地内各所に設置するとともに、巣を発見し次第駆除しています。

4 地域との連携、社会貢献について

施設の運営に当たっては、様々な団体・個人と連携し、協力をいただいています。また、社会教育実習生やインターンシップの受け入れも随時行いました。

(1) 教育事業における連携・協力

教育事業は、その目的・内容によって地域の団体との連携が不可欠です。教育事業における主な連携先は以下の通りです。

○タートルズキャンプ・児童養護施設、みちのくみどり学園、青雲荘、和光学園
・情緒障害児短期治療施設、ことりさわ学園

○教員免許状更新講習・岩手大学・教員免許状更新講習連絡協議会

○テンパークまつり・・・児童養護施設・地元団体・企業 等

○通学合宿・・・・・・滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校
滝沢市教育委員会、岩手日報社、盛岡大学

○Kids Together えいご de キャンプ・NICE, HSBC, 陸前高田市教育委員会等

○さんりく体験！発見隊・岩手県立県南青少年の家、岩手県立陸中海岸青少年の家、
NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク

(2) 岩手大学との連携・協力

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構と主催した事業「頭と体と心の3（未）体験フェスティバル」は、昨年度に引き続き大盛況でした。

また、教育事業「親子で楽しむ大学探検隊」～小学生のオープンキャンパス～を共催し、大学生との交流、大学教員や学生による講義や実験・演習を体験、大学図書館見学や学生食堂での食事等盛りだくさんの内容で、参加家族の高い満足度が得られました。

(3) 盛岡大学との連携・協力

平成29年2月9日に、盛岡大学・盛岡大学短期大学部と国立岩手山青少年交流の家は、これまで培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤とし、より一層、緊密かつ組織的な連携・協力体制の充実を図り、自然の中での活動を通じた社会貢献及び教育・研究の発展に寄与することを目的として包括協定を締結しました。

今後、両者の特色を活かし、国際交流や、児童教育における調査研究といった先端的取り組みについて協力していくほか、交流の家のフィールドを活用した共同事業など、多岐にわたる連携を展開していきます。

今年度は包括協定締結に先立ち、通学合宿「テンちゃん一家の一週間」において、参加した小学生が盛岡大学の構内を見学したり、現役の大学生と一緒に講義の体験をしたりと、盛岡大学と連携・協力した事業を行うことができました。

(4) 岩手県内の青少年教育施設との連携・協力

例年、岩手県内の青少年教育施設（県立県北・県南・陸中海岸青少年の家、盛岡市立区界高原少年自然の家）と合同で集団宿泊教育施設連絡協議会（宿泊連）を開催し、研究協議や情報交換を行っています。今年度は、盛岡市立区界高原少年自然の家で開催され、つなぎ温泉「四季亭」女将 林氏を講師に招き「おもてなしの心」について講演があり、新区界トンネルの視察を行いました。

(5) ボランティアとの連携・協力

子供を対象とした教育事業の際に大学生や高校生などにグループリーダーとして運営の補助をしてもらいました。また、広大な施設の環境整備は職員だけでは限界があるため、地域住民からなるボランティアの協力により、草刈り・花壇整備などの環境整備を行いました。

① 施設ボランティア（法人ボランティア）

大学生や高校生などによるボランティアを育成し、希望者には法人ボランティアとして登録してもらい、様々な教育事業に協力をいただいています。今年は、139名のボランティア（新規79名、継続60名）が登録しました。平成28年度に法人ボランティアが活動した延べ人数は、450名でした。

② 環境ボランティアによる環境整備

今年度も地域住民を主体とする環境ボランティアによる環境整備活動を実施いたしました。4月から11月までの期間、施設内外の草刈りやキャンプ場などの整備を職員と共に行いました。ボランティアの皆さんの献身的な働きにより、当施設の環境が保たれています。（登録者19名、年間6日、参加者延べ90名）

③ 岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒による花壇整備

岩手県立盛岡峰南高等支援学校高等部生徒の皆さんによる花壇の整備をしていただきました。

生徒と教職員の方々は、5月から10月までの間、概ね月1回程度来所し、施設内にある花壇2か所（利用玄関前、第2駐車場前）に、春にはメランポジウム・サルビア、秋にはパンジーを植栽し、除草、追肥等の作業を行っていただきました。（年間7回、参加者延べ約100人）

手入れの行き届いた、沢山のきれいな花々に迎えられて、利用者から大変喜ばれています。

（6）社会教育実習生・インターンシップの受け入れ

今年度も51名（盛岡大学50名、東北福祉大学1名）の社会教育実習生の受け入れを行いました。また、インターンシップ5名（岩手大学1名、岩手県立大学2名、岩手県立大学盛岡短期大学部1名、岩手県立大学宮古短期大学部1名）の受け入れを行いました。

5 職員の資質向上について

事業における企画力・指導力・安全指導、利用者との接遇サービス・コミュニケーション能力、職務遂行上の専門能力、危機管理、子どもゆめ基金、「体験の風をおこそう」運動、サービス規律等の職員の資質向上を目指し、職員研修を行いました。施設内研修として25件（参加者延べ337名）の研修を実施しました。外部の研修には12件（参加者延べ14名）の研修を受講しました。今後も積極的に実施・受講し、職員の資質向上を図り、全職員が利用者に対し、安全・安心、親切・丁寧・迅速な対応を心がけていきます。

また、今年度は職員4名が国立日高青少年自然の家、国立大雪青少年交流の家を訪問し、業務・運営改善の状況及び教育・研修支援事業に関する調査を行いました。今後、他施設での先進的な取組みを取り入れ、当施設の運営改善に務めていきます。